

提 案 の 概 要

施設名：名古屋市志段味古墳群歴史の里

団体名：しだみの里守グループ

(1) 管理運営全般について

①施設の管理運営に対する方針等

<基本方針>

多様な形態の古墳が集まる全国的にもめずらしい上志段味地区において、文化遺産としての古墳を後世に伝えるとともに、郷土史への理解を深め、地域と文化遺産との共生を図る街づくりを目指します。

そのため、本施設において、志段味古墳群の歴史的意義について“見て”、“知って”、“感じる”機会を市民に提供するとともに、観光資源の一つとして育成することに取り組みます。

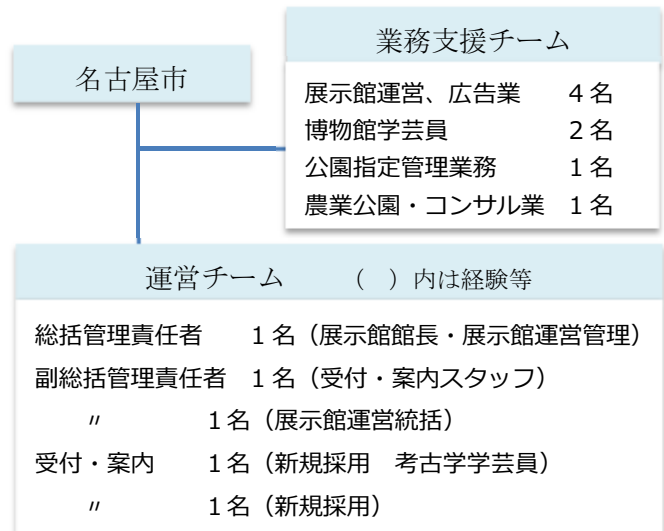
なお、以下の5つの視点を基本に運営に取り組みます。

- ①次世代への継承と文化遺産のある街
- ②平等・公正の担保
- ③公平性・透明性の確保
- ④来館者満足度の向上
- ⑤来館者ニーズの把握と反映

②管理運営体制

<組織・人員の配置・体制>

区 分	人 数
総括管理責任者	1人
副総括管理責任者	2人
従事員	2人



展示館、公園、古墳の施設管理・運営経験を有する共同事業体として、各分野の専門性を活かし、効率的かつ円滑な運営を行います。そのため、プログラムの企画・運営および緑地・古墳管理経験が豊富な人材による運営チームを結成して業務に取り組みます。

運営チームは総括管理責任者、副総括管理責任者、受付・案内スタッフで構成し、展示館運営経験を有する人材ならびに学芸員を採用することで、安定した運営と学術的要望に応えられる体制を構築します。

また、運営チームをバックアップするため各業務のエキスパートで構成する業務支援チームを設置し、安定した運営に努めます。

なお、上記の体制を基本とし、イベント開催時などにはスタッフを増員して対応します。

<人材育成方針>

展示施設での来館者対応の基本となる“おもてなし精神”に基づく接客教育から展示物の説明・アナウンス能力の向上を図る研修を実施します。

さらに、本施設で実施する体験プログラムから古墳・古代史の基礎知識、古墳ガイドツアーのテクニック等の教育を、当グループの持てる経験と実績を活かして計画的かつ確実に実施します。

<市民の平等利用に関する考え方>

ホームページおよび SNS での情報発信やポスター、チラシの活用など公平性と透明性を基本に、全ての市民に対して平等かつ公正であるとともに、障がいをお持ちの方、高齢者など全ての要配慮者の目線にあった運営に努めます。

<災害時の危機管理体制及び事故発生時の対応方針>

危険事象の未然防止および危険事象が発生した場合の速やかな行動を定めた「危機管理マニュアル」を策定します。

また、事故発生時には適切な現場対応と関係箇所への速やかな連絡網構築に加え、業務支援チームによるバックアップ体制を整備します。

なお、事故発生に備えて適切な補償・賠償保険を準備します。

<施設管理・施設修繕・保守点検計画>

来館者に快適で安全な環境を提供するため、十分な経験と実績を有する人材を選任し、建物、緑地、古墳、その他の点検・保守を行います。

なお、施設の維持管理および修繕は「建築保全業務共通仕様書」（国土交通省）を基に実施します。

<古墳・緑地管理>

公園アセットマネジメントシステムにより、安全かつ効率的な維持管理に取り組みます。

芝生、園路、ベンチ、チップ敷設、危険木除去など予防保全の観点から点検・補修に取り組みます。

また、古墳等の毀損を防止するため緑地管理および古墳清掃に加え、日常的に目視点検等を行うとともに、休館日や夜間の巡視体制を整備することで古墳の保護に取り組みます。

(2) 実施業務の計画について

①指定管理業務

<利用者意見の聴取・反映方法>

来館者の属性や満足度および要望を調査するアンケートをイベント実施時はもちろん、平常時にも恒常的に実施し、その内容を分析・検討し運営に反映します。

また、当グループが運営する展示館スタッフや第三者による運営モニタリングを実施し、運営上の課題解決と来館者サービスの向上を図ります。

<利用促進策（PR策）>

WEB や SNS による情報発信に加え、本施設で実施する各種イベントや体験プログラムを告知するポスター・チラシを制作し配布します。

また、当グループが関与する媒体を活用して県内外への PR に取り組みます。

<体験プログラム・講演会・イベント>

歴史好きな市民の学術的ニーズから子どもたちの古墳・古代史への興味を刺激する体験プログラムまで、幅広い世代の“もっと知りたい”に応えるプログラムを開発し提供します。

■体験プログラム（通年）

勾玉作りなど実績のある体験プログラムに加え、当グループが提案するプログラムを提供します。多客時である土日・祝日には、複数のプログラムを実施するとともに、平日にも予め定めたプログラムを提供します。

また、古墳ガイドツアーは、土日・祝日に加え、平日にも体験プログラムとセットで実施する日を設定します。

■体験プログラム（連続講座）

原則、事前に予約していただくプログラムで、“もう少し詳しく古墳や郷土史について知りたい”というニーズに応えた、座学と体験を組み合わせた連続講座や当時の制作技術を学び、極力同じ方法で埴輪を制作する体験など、通年プログラムより高度なプログラムを提供します。

■講演会

志段味古墳群の特徴の一つである帆立貝式古墳や埴輪の最前線を紹介するシリーズ講演会などを企画します。

■イベント

第一線の研究者や最新の調査結果をもとにしたシンポジウムを毎年定期的で開催し、歴史好きな市民のニーズに応えるとともに、施設と会場全体を利用した謎解きゲームや幻想的なあかりのもとで実施するアコースティック・コンサートなど市民の幅広いニーズに応えます。

また、春祭りや秋祭りは恒例行事として、地域住民の意向に沿った住民参加型のイベントとして企画します。

■その他

体験用農園では、草木を焼いた肥灰や抜取除草などの手法を用いて、雑穀など古墳時代の農業に親しみます。また周辺住民との連携の中で古代米の栽培にも挑戦することを検討しています。

<施設ボランティアの育成・活用>

地域と文化遺産である古墳との共生を図るため、施設ボランティアについては出来る限り地域住民に参加を呼び掛けます。さらに、施設ボランティアには、登録前プログラムおよび更新プログラムの受講を義務付け、ボランティアのサービスレベルの維持に努め、来館者満足度の向上とリピーターの確保を図ります。

<地域連携・学校連携>

本施設の周辺で活動する各種団体との連携に加え、周辺大学との連携を図り、本施設の活用に努めます。さらに、類似施設等との連携を積極的に企画し、本施設の広域的又は多面的な連携に取り組みます。

<特記事項>

現役の受付・案内スタッフや学芸員を採用することで、質の高い接客サービスと学術的な好奇心に応えます。

また、古墳の保全、古墳・古代史に対する意識啓発、地域と古墳との共生、学びと体験などの視点からプログラムの企画・開発を行います。

②自主事業

<オリジナルグッズ等の販売>

志段味の各古墳を写した文化遺産カードや瀬戸の陶芸家と連携した古墳をモチーフにした陶器など、本施設でしか手に入らないオリジナルグッズを開発し、施設内に設置するミュージアムショップで販売します。

また、名古屋市が制作したオリジナルグッズ等の販売を行います。

<自主イベントの実施>

古代食をとおして古墳や郷土史への興味を喚起するイベントなど、地域住民の意向を尊重したイベントを企画します。

<講座・講演会>

落語や講談といった伝統芸能をとおして、考古学や歴史を身近に感じていただく機会を提供します。

(3) 収支計画について

①管理運営にかかる費用等

<年度ごとの指定管理料の提案額>

(単位：千円)

区 分	金 額
2019 年度	110,000
2020 年度	110,000
2021 年度	110,000
2022 年度	110,000
2023 年度	110,000

<年度ごとの収支計画>

【管理運営経費】

(単位：千円)

区 分	金 額
2019 年度	118,020
2020 年度	118,020
2021 年度	118,020
2022 年度	118,020
2023 年度	118,020

【利用料金収入等】

(単位：千円)

区 分	金 額
2019 年度	7,720
2020 年度	7,720
2021 年度	7,720
2022 年度	7,720
2023 年度	7,720

【自主事業からの充当額】

(単位：千円)

区 分	金 額
2019 年度	300
2020 年度	300
2021 年度	300
2022 年度	300
2023 年度	300

<経費削減の取組み>

- ・各分野の経験者がバックアップする体制の構築による人件費の節減。
- ・省エネルギー活動による経費の節減。
- ・展示室の利用促進と自主事業の展開による収入の拡大。
- ・物品発注方法等の効率化による経費の節減。